



第42回 卒業証書授与式 学校長「式辞」

三月に入り、路上の雪も解けては凍りを繰り返しつつも、日中の陽射しにはようやく少しずつ春が近づいている気配が感じられるようになってきたなか、本日こうして本校第四十二回の卒業証書授与式が挙行できますこと、たいへん喜ばしく思います。本日は皆さんの卒業を祝い、本校PTA会長 唐原様をはじめ、新札幌わかば小学校の高橋校長先生や、本校学校評議員の皆様、地域町内関係団体の皆様をご来賓に迎え、また、たくさんの保護者の方々にもお集まりいただきました。卒業生の皆さんには、自分たちが地域や家庭において大切に見守られてきた存在であることに、あらためて誇りと感謝の気持ちをもって旅立って行ってほしいと思います。ご来賓の皆様、高い席からで恐縮ですが、心より感謝申し上げます。本日はまことにありがとうございます。

そして卒業生の保護者の皆様、お子さまの中学校のご卒業、まことにおめでとうでございます。いまここにある立派に成長した子どもたちの姿は、これまでに保護者の皆様が注いできた、深い愛情とたゆまぬ努力のたまものと存じます。十五年間、さまざまなお苦勞があったことと思います。保護者の皆様におかれましても、ひとときこの式では、我が子が義務教育を終えるまでの、大きな責任を果たせたことへの誇りと喜びを味わっていただけたらと思っています。

さて、卒業生の皆さん。いま一人一人に卒業証書をお渡ししましたが、それぞれどんな気持ちで受け取ってくれたのでしょうか。証書を渡しているとき、そして渡し終えた今の、私の率直な気持ちは、「立派な姿だね。これまでよく頑張ってきたね、おめでとう。けれど、これでお別れだよ。君たちはこれから新しいところで新しい生活を一から始めるんだ。君たちの生活から青葉中は消え、思い出になるんだ。今が仲間や後輩、先生たちと共有できる最後の瞬間なんだ。最後の最高の思い出として今日のことを忘れないでね」というものです。今日のこの卒業式のこと、しっかり思い出にとどめていってください。

私はこれまで皆さんに、青葉中での生活においては、「できることには全力で挑戦し、みんなで盛り上げる」とこと、「一つ高いレベルへの、少し難しそうなことへのチャレンジに、仲間とともに果敢に向かっていく」ことを目指してほしいと、繰り返しお話ししてきました。皆さんは十分にその経験を積み、成長を遂げて、今日の卒業式を迎えました。これまでよく頑張ってきたことへの自信と、これからの新たな世界への希望を胸に、自分の足でしっかり次の一歩を踏み出していってください。

今日はもう一つ、人生の新しいステージに向かっていく皆さんへの願いをお話ししておきます。皆さんはこれまで、小中学校合わせた九年間や、その前の小さい子どもだったころから、日々さまざまなことを学びながら成長し、力を付けて今日を迎えました。学んだすべてのことが完璧に身に付いた人間はいないと思いますが、四月からは、義務教育を終えてきたのだから少なくともこれくらいのことは身に付いているはず・できるはず、という前提で見られることになっていきます。進級とか進学とか、ステージが変わるたびに、以前の段階では「身に付けよう」という目標としてきたものが、新しい段階に進んだとたん、「これくらいは身に付いているはず」という、基本的な要求レベルが変わってしまいます。ステージが上がれば、最初から要求されるレベルが上がり、期待や目標が高いものになるということをきちんとわかって進んでいかなければなりません。私は、ここで大切なのは、その高まる要求や期待にこたえていけるよう頑張りたいという気持ちをしっかりもてることだと思います。将来に向け、ステージが上がるたびに、ますます高まる自分に対する要求と期待にこたえていきたい、仲間と力を合わせて全力で果敢に挑戦していきたい、そういう生き方を目指してほしい、これが私から皆さんへの願いです。たくましく、そしてしなやかに、協働の意識をもったよき社会人として活躍していってください。

最後になりますが、旅立っていく卒業生や、これから続く後輩たちが生きていく未来は、私たちの世代には予想もつかない世の中になっていくといわれています。しかし、夢を追い、必要とされる人材となるべく努力することは、これ

からもきっと求められていくに違いありません。これからも青葉中学校では、互いに認め合い、力を発揮し合ってよりよい社会をつくっていかうとする若者を育てることを目指して頑張っていくことを約束し、本校を卒業していく皆さんが、本校での学びを将来に生かしていってくれることを願い、卒業式にあたっての私からの挨拶といたします。

第四十二回卒業生の皆さん、本日は卒業おめでとうございます。お祝いにつけてくださったご来賓、保護者の皆様、まことにありがとうございました。これからも地域に暮らす子どもたちの見守りと、本校の教育活動への変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和六年三月十五日
札幌市立青葉中学校
校長 中山 勝喜

送辞

冬の厳しい寒さも段々終わりを告げ、春の訪れを感じられる今日、晴れて、この青葉中学校卒業式を迎えられた皆さん、ご卒業、本当におめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

今、先輩方はこの青葉中学校に入学し、仲間と過ごしてきた三年間をどのように振り返っているのでしょうか。第四十二期生として、在校生を、そして青葉中学校を引っ張ってくれた日々、そのリーダーシップや、何事にも挑戦し、団結している姿には、何度も驚かされ、今では我々在校生にとっての大きな目標となっています。

入学したての頃、新入生歓迎会にて、私の目に大きく映ったのは、上級生が協力し、自分たちの部活動の魅力を精一杯伝えている皆さんでした。会自体もおもしろく、強く憧れを抱いたのを今でも覚えています。また、委員会に自分達も加わり、右も左も分からなかったとき、一つ一つ教えてくださったので、覚えることができ、どんな時でも責任感をもち、どんな状況でも冷静に対応している先輩方を心の底から「かっこいい」と感じました。そのような誠実さが委員会や各行事を成功させる秘訣だと学びました。

行事の中で学んだことは他にもあります。今年からようやくコロナによる規制もなくなり、本来の姿が戻ってきたような気がします。長らく本格的に開催することも無かったであろう学校祭、合唱コンクール、陸上競技大会など、全校で思い切り楽しむことができ、私にとっても最高の思い出として心に残っています。そして「これまでの当たり前」が分からないにも関わらず、手探りで頑張る一年生、前年よりも良いものを作ろうという二年生、そして最後を全力で楽しもうとする三年生という、取り組み方は学年で違っていても、学校全体が一つになって終われた最高の一年間でした。このような姿が来年度も見られるよう、一年生と二年生の皆さんにもご協力をお願いします。

先輩方には、今の私達、一、二年生はどのように映っているのでしょうか。私は、一、二年生を見ていて、一年生の良さは正直で元気いっぱいなところ、二年生の良さは見て見ぬふりをせず、気遣いができるところだと考えています。もちろん、まだまだ課題は多いですが、それらを乗り越え、これからの青葉中学校を作っていけると信じています。三年生の皆さんが卒業し、心細さや寂しさは残りますが、私達を信じて青葉中学校を任せて、今日旅立ってほしいと思います。これまでの先輩方が作った伝統、三年生が新しく作った伝統どちらも受け継ぎ、環境や時代が変わっても忘れられないような青葉中学校になるよう、そして私たち二年生が皆さんに負けないように、青葉中学校の新しいリーダーとして頑張っていこうと思います。

皆さんならどんな難しい壁にぶつかっても、乗り越えられると信じています。何事も全力で挑戦し、これからの益々のご活躍とご健康を心からお祈りし、送辞とさせていただきます。

令和六年三月十五日
在校生代表 現生徒会長

答辞

土に根を張る植物たちが、花開くその時を今か今かと待つ息吹を感じられる春、私達は、根を張った学び舎を巣立つ特別な日を迎えました。

特別な日、私はこの街の空気を胸いっぱい吸い込みたくなります。私と空気が混ざり合ったとき、いつも通りのこの街が私の側にいると思えるからです。みなさんは今日、この街の空気を吸い込み、どんなことを思ったのでしょうか。

思えば三年前の春も、この空気で胸いっぱい満たされていました。あの日、私がここから見たみなさんは、未来に体当たりで挑む緊張と決意の顔をしていました。そして今日も、私はここからみなさんの顔を見ることができています。私は本当に幸せ者です。

入学式当日、私は名札を忘れ、先生方に鬼のように叱られるのではないかと思ったのを覚えています。しかし、先生方は不安でたまらなかった私を優しく迎え入れてくださりました。そしてその優しさは、今日までの三年間、一度も変わることはありませんでした。いつも私達を信頼し、背中を押してくれた先生方、そして、私達の日々を形作ってくれたすべての職員の方々を心から尊敬しています。本当にありがとうございました。

二年前の春、私達は初めて先輩と呼ばれました。不安で、恥ずかしかったけれど、何よりも嬉しかったです。時に先輩らしさとは何なのかと悩み、先輩としての役割を上手くこなせない自分に腹が立ちました。しかし、お昼の放送で委員会や部活の後輩を見ると嬉しそうに笑ったみなさんの顔が、三年生全員が自分の役割を全うした何よりの証拠だと思えます。後輩のみなさん、私達に先輩としての日々を与えてくれてありがとうございました。みなさんが頼ってくれて、助けてくれるから、私達は全力を出すことができました。これからみなさんが創っていく青葉中学校が、全校生徒のかけがえのない居場所になることを信じています。可能なことではなく、やりたいことを第一に追い求めていってください。

一年前の春、私達は受験生になりました。自分の進む道を自分自身で決める、貴い一年間であったと同時に、足がすくむことも沢山あった一年間でした。隣にいた友達の背中が急に遠く見えることもあり、自分を責めたこともありました。そんな時でも、帰る家があり、家族がいたことが、私達を支えてくれました。友達のように話を聞いてくれるときもあれば、黙って私達の道標となってくれるときもありました。卒業生を代表して、保護者の方々に心からの感謝を伝えたいと思います。溢れんばかりの愛情をありがとうございました。まだ自分の足だけでは前に進めないときも多いので、これからもよろしくお願ひします。

また、私達は受験生でありながら、以前の活気を取り戻した学校行事にも本気で向き合いました。行事の度にそれまで知らなかったお互いの姿を見ることができて、出会い直したような気持ちになりました。一から苦勞して自分たちの手で演劇を作り上げたときや、協力して、技巧を凝らした展示物を作り上げたとき、そして練習を重ねて一緒に作り上げた歌声を響かせ合ったとき、本当に心が震えました。こんなに人の心を動かす仲間たちと私は出会えたのだと思うと、嬉しくてたまりませんでした。努力の大切さとか仲間のありがたさとか、口にするのは簡単なことも、みんなで体現することで、綺麗事なんかではなかったのだと気づきました。一人の人間として学び合い、尊敬しあえる集団であったことを誇りに思っています。

そして、今年の春。今日という特別な日を迎えました。

体と共に心も成長した私達は、各々の正義を持つようになって、言葉では上手く言い表せないような複雑な思いを抱くようにもなりました。集団生活の中でぶつかることもあったと思います。テレビに映る争いの炎を見て、世界はそんなに単純ではないのだとふと気づくこともありました。それでも、だからこそ、私にはみなさんという仲間が必要でした。

三年生のみんな、私の仲間であってくれて、本当にありがとう。一緒に沢山の壁を乗り越えてくれて、一緒に今日を迎えてくれて、本当に本当にありがとう。お互いを大切に過ごしたこの三年間培った私達の力を、各々の場所で発揮し、広げていきましょう。

期待と決意を胸いっぱいに詰め込んで、確かに歩みだすことを誓い、答辞とさせていただきます。

令和六年三月十五日
卒業生代表 前生徒会長